

共生・地域づくり分科会に関する検討・報告(試案)

	札幌市の現状	課題	必要な施策	提言
少 子 化	<p>札幌市の女性の合計特殊出生率は、政令都市の中で最下位です。</p> <p><u>子育て家庭、とりわけ子育てをしている女性は、経済的・精神的・肉体的負担を抱えています。</u></p>	<p>最下位から第1位になるように、努力します。</p> <p><u>これ以上の経済的負担をかけずに、精神的・肉体的負担を軽減します。</u></p>	<p><u>障がい児も含めたすべての子どもと、あらゆる条件の子育て家庭の援助を充実します。</u></p> <p><u>孤立しがちな子育て家庭が、札幌市にある社会資源に確実に繋がっていく工夫をします。</u></p>	<p>必要な市の事業を検討します。例として、<u>民間方式の児童育成会(通称：共同学童保育所)のための施設の借り上げ、貸与制度を検討します。</u></p> <p><u>地域子育て支援センターの実施を既存の7市立保育所から、他の保育所・幼稚園・NPOへと広げ、小学校区に1支援センターとする(その際には、評価点検による選抜により補助を行う)。</u></p> <p><u>「札幌市子育て支援センター」＝「地域子育て支援センター」＝「各保育所・幼稚園・児童育成会・その他のNPO活動」＝「民生委員・児童委員・主任児童委員」間の情報を共有し連携を図り、子育て家庭を社会資源へと繋げていく。</u></p> <p><u>『札幌市子育てガイド』の充実と配布に工夫をする。</u></p> <p><u>地域の子育てコーディネーターとして、主任児童委員(主任以外の民生委員・児童委員も?)を活用し、家庭訪問の充実を図りながら、ニーズの発見と相談に応じていく。</u></p>

下線部が追加・修正意見

共生・地域づくり分科会に関する検討・報告(試案)

	札幌市の現状	課題	必要な施策	提言
	<p>8年前から、バリアフリー公園(藤野むくどり公園)の有効活用のために、公園前の個人住宅をふれあいの拠点として、むくどりホーム・ふれあいの会を始めた。心のバリアフリーを目指した障がい理解の場を提供することが目的であったが、次第に他の要素の必要性が出てきた。即ち、子育て支援、学童支援、障がい児支援と交流、ボランティア活動の場の提供、小学生の総合学習の場、大学生・大学院生野研究の場、冬でも遊べる公園などである。ボランティア活動として精一杯対応してきたが不十分である。</p>	<p>個人住宅の無料提供では、個人が支えきれない範囲の活動に限定される。たくさんのニーズが発生しても、すぐに実践に結びつけにくい。</p>	<p>多目的施設を地域に創設する。この1年間は、藤野むくどり公園とむくどりホームをテストケースとして、この活動を検証してほしい。</p> <p>もしも、官民協働の場になったら、さらに活動内容の充実が予想される。子育てサロン、高齢者サロン、児童クラブ、障がい児・者の生きがいの場、デイケアの機能、地域のふれ合いの拠点、情報の提供、他地域とのネットワークづくり、開館日の増加、夜の集まり、趣味の教室活動、よろず相談機能、総合学習の充実など。</p>	<p>札幌の特徴的活動の創設</p> <p>冬でも遊べるバリアフリー公園と、誰もが友達づくりをするふれあいの拠点づくり</p> <p>実現のためには、地域住民の理解と協力、学校との連携、町内会との連帯が必要条件である。16年度1年間のむくどりホーム・ふれあいの会の活動をテストケースとして検証した上で検討していただきたい。</p>

共生・地域づくり分科会に関する検討・報告(試案)

	札幌市の現状	課題	必要な施策	提言
少子化			追加(案) (障がいのある子ども・中高生も含む)	追加(案) 学齢障がい児の保育を充実します。例として学童保育への、障がい児加算を道レベルに、また中高生のデイサービスの新設など。
高齢者・障がい者との共生	案 札幌市の知的障がいのある人の3分の1は入所施設で(そのうち3分の2は札幌市外)暮らしています。また、地域共同生活をしている数は全体の8%弱ですが、そのうち3分の1は市外に暮らしています。	ここは案通り	入所施設をもうつくりません 障がいのあるより多くの方々が、それぞれの意志に基づいて、・・・ 後は同じ	案 1. 国の基準通りNPO法人でもグループホームを設置運営できるようにします。 2. ホームヘルプサービスについての札幌市独自の規制をとります。 例えば、グループホーム利用者も必要なだけ伝える。 移動介護の年齢枠をとる。 3. より多くの支援を必要とする人たちがグループホームで暮らせるように札幌独自の補助事業を新設します。

下線部が追加・修正意見